

報告事項キ

平成21年度体力テスト調査結果について

平成21年度体力テスト調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成22年5月27日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 平成 2 1 年度新体力テスト調査結果について

スポーツ健康教育課

### 1 調査の目的

新体力テストを実施することにより、児童生徒の体力（運動能力を含む）の現状を明らかにするとともに、学校体育の指導及び行政上の基礎資料とする。

### 2 調査対象及び人数

鳥取県内すべての公立小学校・公立中学校・県立高等学校（全日制）の児童生徒数の約 1 0 % にあたる人数を抽出した。

抽出数：7, 1 5 8 名（児童生徒数 6 2, 8 9 4 名）

### 3 調査期間

平成 2 1 年 5 月～ 7 月 調査

9 月～ 1 2 月 集計・分析

1 2 月、1 月 検討委員会

（考察、子どもたちの体力の課題に対応した運動例の作成）

### 4 調査項目

（ 1 ）体力テストの調査項目（ 8 項目）

・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、2 0 m シャトルラン、5 0 m 走、立ち幅とび、ボール投げ

（ 2 ）生活習慣調査項目（ 7 項目）

・運動部やスポーツクラブへの所属、運動の頻度（週回数、1 日の時間）、朝食の有無、睡眠時間、テレビの視聴時間、パソコン・携帯の利用時間

### 5 調査結果の概要

別紙 1 ～ 3 のとおり

### 6 今後の対応策について

（ 1 ）本調査結果を学校体育、特に教科指導の充実・改善に活かしていく。

・児童生徒の体力の実態に応じた指導や体力向上に向けた系統的な指導の充実に生かす。

・報告書に示した運動例を体育学習に取り入れた実践を重ねる。

・低学年からの運動習慣づくりを進めるとともに、学習指導要領に示された内容を確実に身に付けさせるために学習を工夫する。

（ 2 ）文科省が実施した「全国体力、運動能力、生活習慣等調査」（資料）の結果も踏まえながら、本県のより詳細な体力・運動能力の実態把握に努め、具体的な取り組みを提案していく。

別紙 1

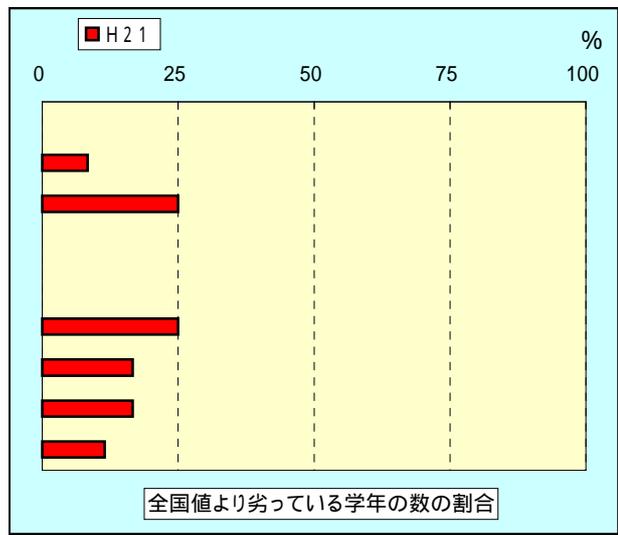
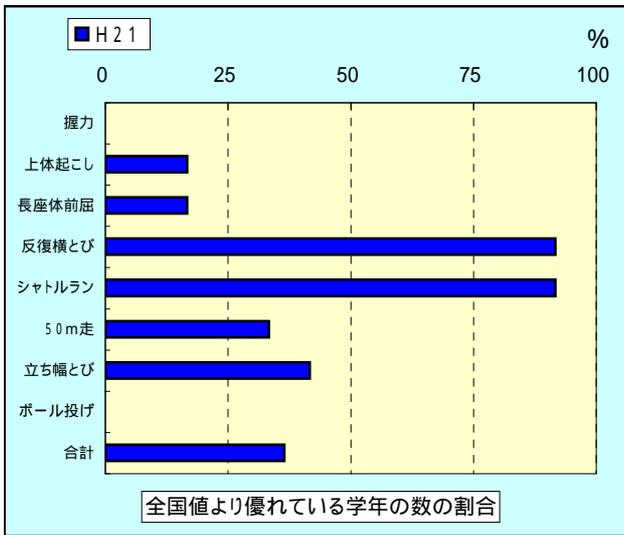
1 新体力テスト合計得点の全国平均値との比較

男子	小1年(6歳)		小2年(7歳)		小3年(8歳)		小4年(9歳)		小5年(10歳)		小6年(11歳)		
	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	
	30.35	31.87	38.02	38.35	43.56	44.61	49.88	49.97	54.98	56.09	61.29	61.21	
女子	小1年(6歳)		小2年(7歳)		小3年(8歳)		小4年(9歳)		小5年(10歳)		小6年(11歳)		
	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	
	30.04	30.63	36.98	38.26	43.52	44.54	50.00	50.39	56.25	56.95	61.37	62.21	
男子		中1年(12歳)		中2年(13歳)		中3年(14歳)		高1年(15歳)		高2年(16歳)		高3年(17歳)	
	34.49	34.13	43.00	42.62	49.88	50.63	50.21	54.29	54.04	56.52	55.69	58.66	
女子		中1年(12歳)		中2年(13歳)		中3年(14歳)		高1年(15歳)		高2年(16歳)		高3年(17歳)	
	44.41	45.08	49.62	51.86	51.88	51.66	48.78	51.48	50.46	54.09	50.96	53.28	

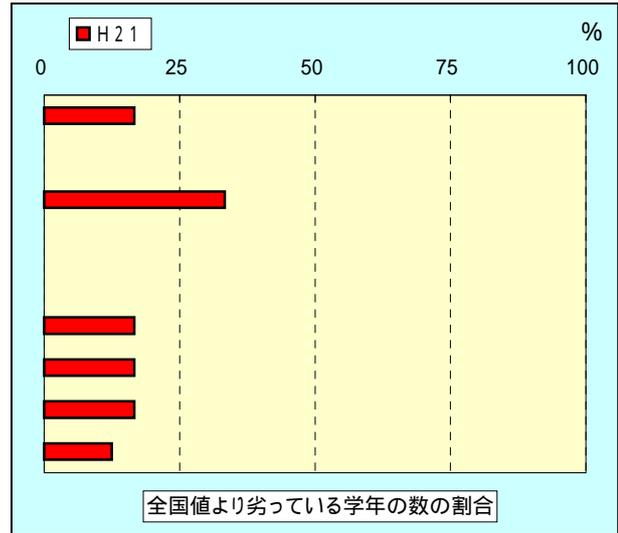
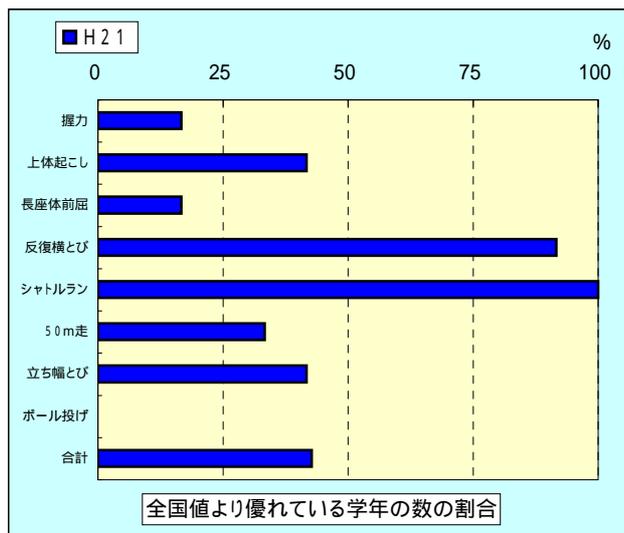
2 Tスコアによる全国との比較(種目別に見た場合)

全国値と比較して、各種目ごとの有意差が認められた学年の数(小1~高3・全12学年)の割合

男子

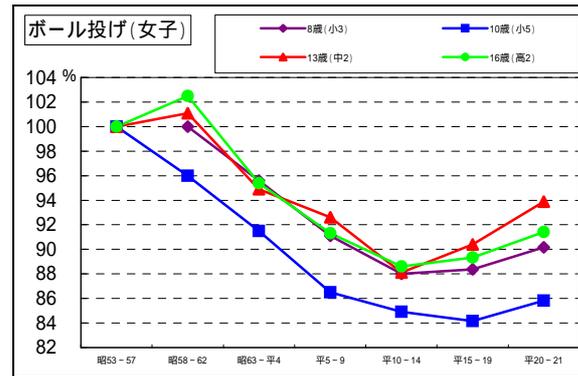
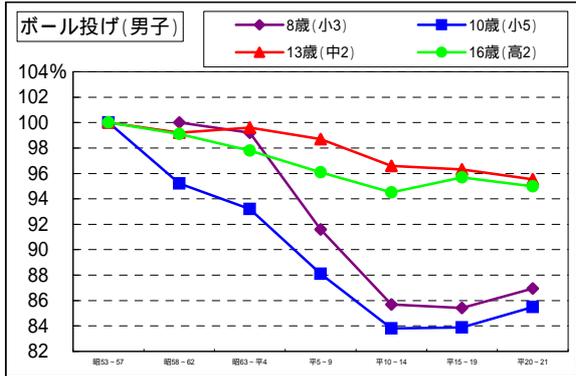
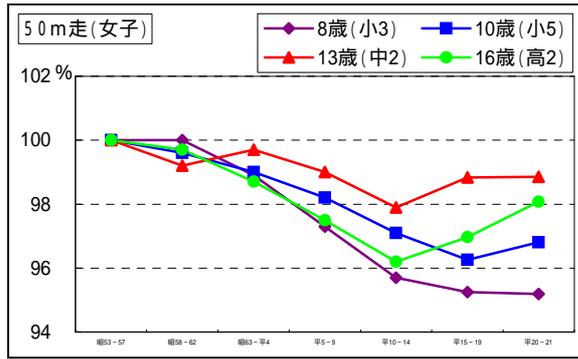
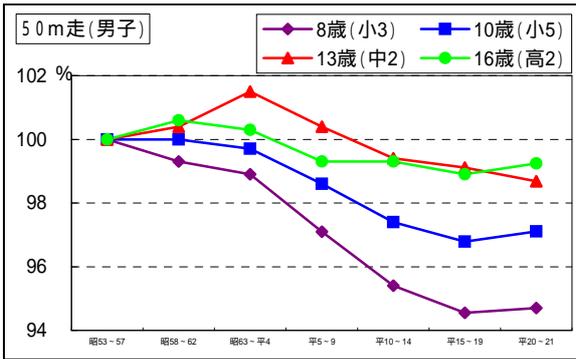


女子

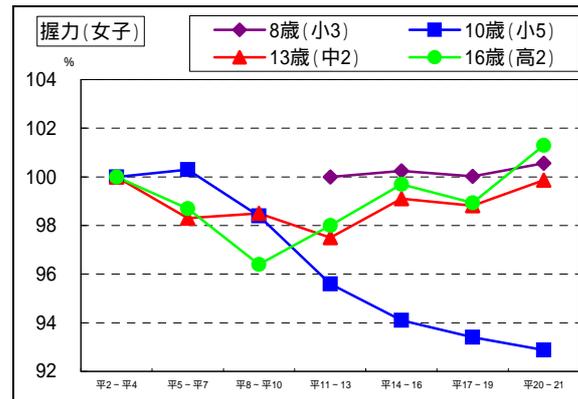
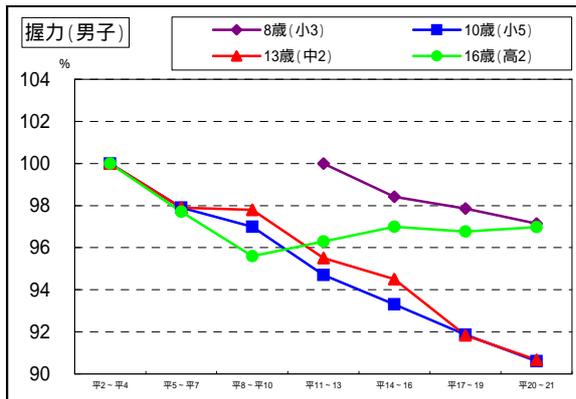


合計得点は、男女24学年中20学年で全国平均を上回っている。  
 ショトルラン(全身持久力)、反復横跳び(敏しょう性)は、ほとんどの学年で男女とも全国平均より優れている。  
 長座体前屈(柔軟性)では、全国平均よりも劣る学年の割合が高い。

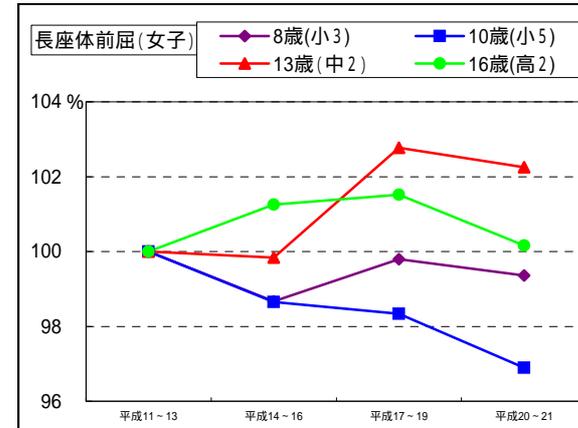
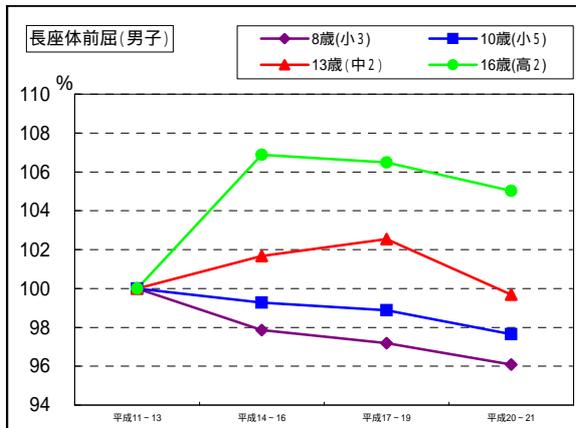
別紙2 「平均値の年次推移」



昭和53年～57年の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したものを。



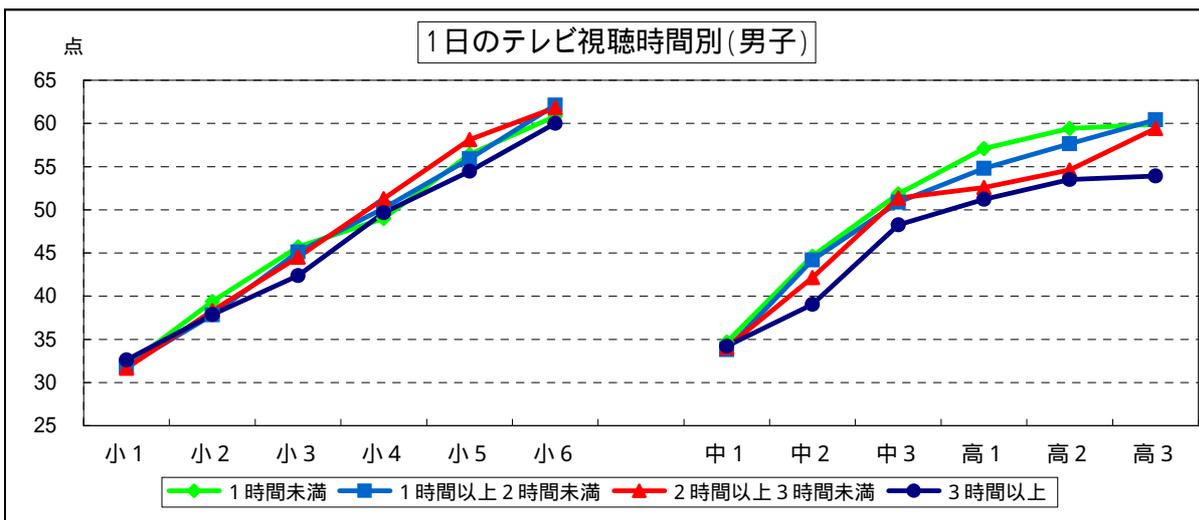
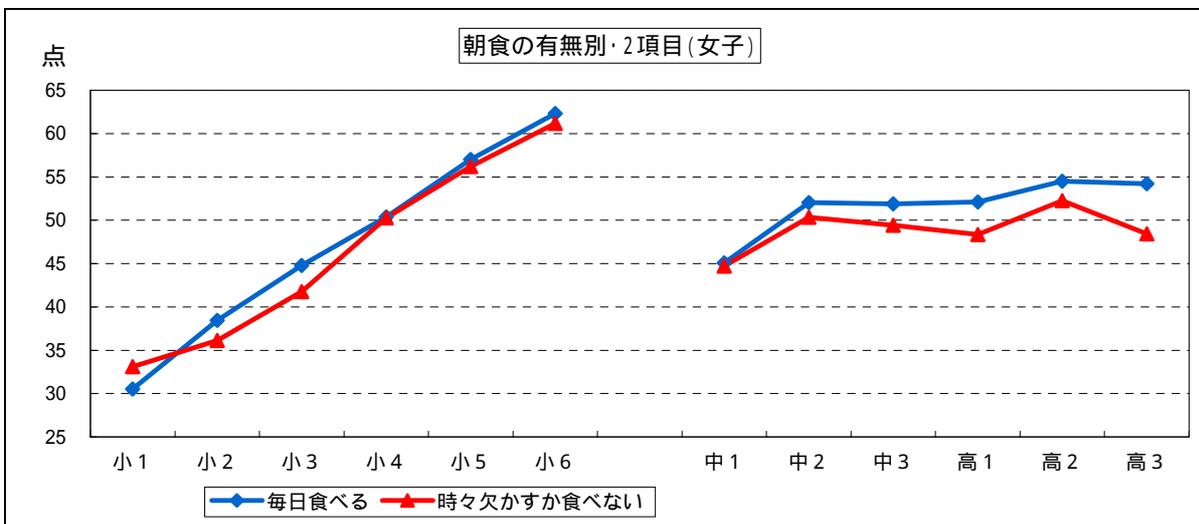
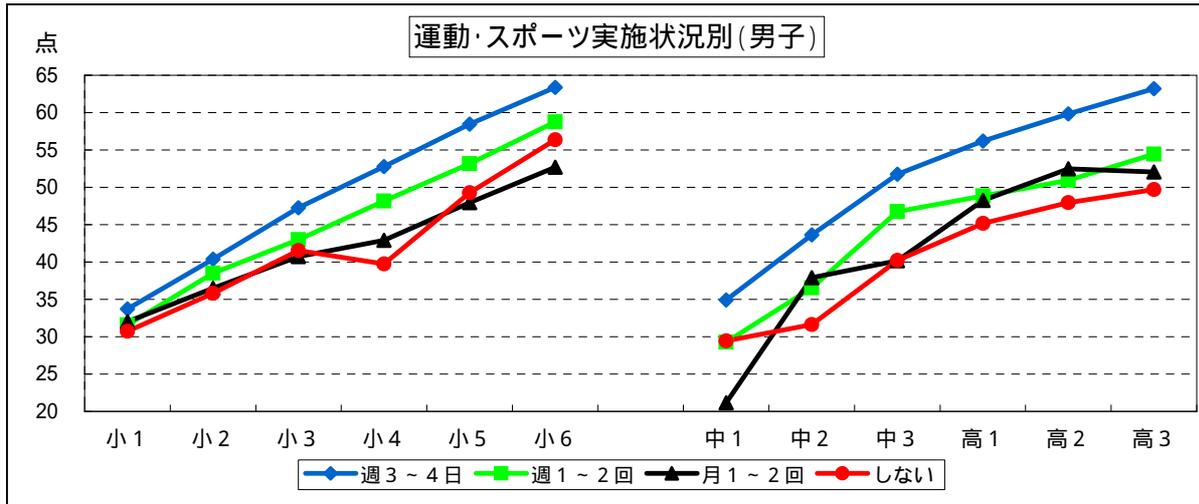
平成2～4の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものを。



平成11～13の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものを。

長年本県の課題とされてきた、50m走、ボール投げについては、全体的に低下傾向に歯止めがかかり改善の兆しが伺える。  
 握力については、男子の低下が著しく、女子では小学5年生の低下が続いている。  
 長座体前屈は、ここ数年低下傾向がみられる。特に、小学生は、低下傾向が続いている。

別紙3 「生活習慣と体力・運動能力の関係」



運動実施回数が多いほど、体力運動能力得点平均が高い傾向にある。  
 「朝食の有無」「テレビの視聴時間」と体力得点の関係では、毎日食べる群とそうでない群、3時間以上テレビを見る群とその他の群の差が、中学生や高校生で大きくなっていく傾向にある。